

日本原水協活動交流ニュース

発行：原水爆禁止日本協議会 電話：03 - 5842 - 6031 2019年
FAX：03 - 5842 - 6033 Eメール：antiatom55@hotmail.com 10月30日発行

被爆の実相を国内外にひろげよう

【千葉】四街道市で核兵器廃絶平和都市宣言 36周年・平和と文化展



四街道市では、毎年秋に「平和のつどい」を開催しています。この企画は、2008年に「非核平和都市宣言」25周年を記念して、市民も「平和のつどい」実行委員会に参加して開催し、大きな反響をよびました。これを契機に被爆者支援を活動の軸にする市民団体も生まれ、毎年実行委員会に市民が参加して「平和のつどい」が開かれています。この市民団体には『原水協通信』読者も複数います。

今年は12月7日に「平和と文化のつどい」として開かれることになっています。このプレ企画として「四街道市核兵器廃絶平和都市宣言 36周年・平和と文化展」が10月29日から11月3日まで、四街道市民ギャラリーで開かれました。

この「平和と文化展」のメインは、広島市立基町高校の「原爆の絵」展です。会場中心に、今年、四街道市の平和事業として広島に派遣された中学生の報告感想文が展示され、それを囲うように「原爆の絵」が展示されました。中学生と高校生の平和への思いが凝縮された空間となり、見学者は思わず感想文を書く場面もありました。（千葉県原水協事務局長・紙谷敏弘）

イギリス・フランス・IPBの青年に広島・長崎原爆被害展示組写真を贈呈

国際平和ビューロー（IPB）の会議中に、3つの青年団体の代表に原爆組写真を贈呈しました。一言を紹介します。

（日本原水協担当常任理事・朝戸理恵子）

（左端）：マディー・ベルデルスキー（英CND本部スタッフ・青年CND担当）



「今年、青年の企画で広島に行く機会がありました。広島に行き、被爆者の話を聞くのは私の人生を変える経験でした。CNDの活動でぜひ活用します」

（中央）：リサ・シルヴェスター（フランス平和運動・IPB運営委員）

「スイスのジュネーブに隣接する地域で活動しています。近くにはジュネーブの国際機関や大使館で働く日本人家庭も多く、彼らとも協力し、日本代表部にも働きかけて、この原爆組写真を活用して人々に核兵器問題を知らせたいです」

（右端）：ルーカス・ヴィール（IPB事務局・IPB青年ネットワーク担当）

「IPB青年ネットワークの活動の中でこれらの写真を青年たちと共有し、核兵器の人的影響について知らせていきたいです」